



OSAKA LIFE SUPPORT

NEWS

2010年1月号

VOL. 5



<2009.9.6「全国でPUSH運動」大阪会場（住之江会館）・・・本文参照>

CONTENTS

- 新年のご挨拶.....理事長 西本 泰久 顧問 關 淳一
- 大阪府AED設置調査委託事業の中間報告.....事務局次長 松本 耕司
- 2009.9.20「救急防災フェスタ2009～AEDを学ぼう～」報告.....北村 哲久/石見 拓
- 「全国でPUSH！」運動をスタート.....石見 拓/前重 壽郎/岸森 健文
- AHAコースからの報告.....よしだレディースクリニック 吉田 雅代
- 「応急手当コース」の企画・進捗状況.....大阪医科大学救急医学教室 小林 正直
- 「あっぱくん」開発チームからのメッセージ.....石見 拓/仁科 真/富田 圭二/川村 昌也
- <救命の現場から> 2009.11.2 JR大阪駅前での救命措置について.....東住吉森本病院 花田 亜矢子
- ディレクター・インストラクター自己紹介.....小寄 緑/龍野 高史/小高 剛至/熱田 恵美
- 2009年4～12月の講習会活動実績と、2010年1～3月の活動予定
- 事務局からのご連絡



新年のご挨拶



理事長 西本 泰久



顧問 関 淳一

あけましておめでとうございます。

2009年は、大阪ライフサポート協会にとって、激動の年でした。PUSH講習会の開催の充実と「あっぱくん」(簡易型蘇生練習ボックス)の発売、AHA(アメリカ心臓協会)のコースの導入、事務局の刷新、大阪府からの「AEDマップ事業」の委託と様々なことがありました。加えて年の後半からは応急手当コース新設の準備も始めました。すべての会員の皆様のご協力のおかげで、この激動を乗り越えることができたと考えています。

皆様方のお力でこのように、充実した協会に育てていただき、心から感謝しております。どうもありがとうございました。

2010年は、今までに蒔いてきた「救命のこころ」という実が実るときであると考えています。

5年の予定で始まった大阪府の委託コースは2009年度一杯で終了します。従来からの市民Aコース、市民Bコース、医療従事者コース、PUSH講習、AHAのBLS(一次救命処置)コースとACLS(二次救命処置)コース、インストラクター養成コースと様々な要望にお応えできるコースの充実開催に加えて、大阪ライフサポート認定コース(ディレクターが独自に行うコース)と応急手当コースが開始されます。

今まで、会員の皆様、インストラクターの皆様が育ててきた、「救命のこころ」を広げる大きなチャンスが巡ってきたわけです。景気がよくないときこそ、本当の人のこころの温かさが求められます。大阪ライフサポート協会は、「人の心の温かさを育てていくNPO」であり続けたいと思います。

「ひと」だけが、仲間の命を救うことのできる生き物です。救命のための手当や処置は、「ひと」にだけ与えられた特権なのです。その特権を普及することが我々の使命であると考えています。

今年こそ、皆様の力をいただいて大きく飛躍したいと思います。どうぞご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

明けましておめでとうございます。

皆様方 各々、新たな気持ちで2010年の新春をお迎えになられたことと思います。

「命」というのは、その人にとって一つしかないものです。その「命」を一般市民のだれもが、少しの知識とちょっとした勇気と行動で教える事が証明されつつあります。その一つとして、大きな部分を占めるのは、病院の外で起こる突然の心停止です。この人達を一人でも多く救命し、社会復帰してもらうことが大阪ライフサポート協会の究極の目的でしょう。その為には、一般市民に対してどのような知識の提供と訓練が最適なのかを実践を通じて研究していく事は極めて意義のあることです。

いわゆる「救命の連鎖」が一般市民によって、ごく当たり前のように行われるにはどのような戦略が最も有効なのかをさぐりながら、当協会が現在行っている事業は全体的を射ており、社会的にも国際レベルに於いても認められつつあります。

特に、これ迄の医学的データを基にした胸骨圧迫のみの蘇生法とAEDの使用法に的を絞った講習会は今後更に注目されるものと思います。この方法は、その容易さから、高校生は勿論、小・中学生にも可能で、教材も吟味されてきており、今後更なる広がり強く期待されます。同時に講習を通じて、若い人達に命とは何か、何故大切なのかということを考えさせる得難い機会になるでしょう。

また、現在行われている大阪府下のAEDマップ作成も極めて重要な事業です。この、日本初のマップが完成すれば、講習会等に於いても大阪の現状に基いた、より具体的な教育カリキュラムの作成も可能になると思われれます。

この様な、大阪ライフサポート協会の活動が今日あるのは、何と云っても、メンバーの皆さんの若々しい、目的に向かって一直線に走っていく、そして全く私心のない姿勢にあると思います。有能な事務局スタッフ、お互いに何でも言い合える、本当に気持ちの良いチームワークがその基礎として存在すると思います。

メンバーの方々の今年一年の頑張りが、協会に又、新たな展開を与えてくれることを確信しています。

1. 事業の概要・目的

当協会は従来から大阪府AEDマップの作成に協力していますが、昨年11月から本年3月までの予定で、大阪府から委託を受け、「救命都市おおさか戦略事業」として、又「緊急雇用基金事業」として現行のAEDマップを充実させる事業に取り組んでいます。

事業の目的は、大阪府下には1万以上のAEDがあるとされる中で、現在のマップには1,200件程度しか登録されておらず、この差を少しでもうめていくことにより府民に充実した情報を提供し、それにより救命率の向上に貢献したいというものです。

又、仕事の内容は、政府の緊急雇用基金を活用して70人前後の方を3月まで採用し、事務所も臨時に設置して、大阪府下の全団体に電話でAED設置の有無の確認、登録と公開のお願い、設置施設関係者以外の市民活用を呼びかけるというもので、月の架電目標を6万件におくという大がかりなものです。

2. 薄氷を踏む思いのスタート

協会にとっては大変荷の重い事業であるところに、夏のAED講習会の最盛期は身動きがとれず、漸く9月になってから遅いスタートを切ることができました。それからの1ヶ月余りは採用面接と新職場の設営、仕事の準備に明け暮れ、漸く70人採用のメドが立ったのは10月末・・・、仕事開始予定日のわずか1週間前という真にきわどいタイミングでした。ホッと胸をなでおろしたのは言うまでもありません。

3. 受け入れ教育を熱心に受講

11月2日の入職式に集まった方々は21歳から68歳までで男女比は半々、50歳代、60歳代が一番多いという構成でした。AEDには素人の皆さんが社会貢献や人命救助につながるという思いもあってか二日間の導入教育を熱心に受講いただき、いよいよ本番の電話作戦に取り組んでいただくことになりました。



4. 本番に入ってから苦勞・誤算

本番に入ってから2ヶ月間は準備期間不足があらゆる面で露呈し、その対応に苦勞することになりました。

特に困ったことは、①本当に大阪府の仕事なのか？ ライフサポート協会とは何者なのか？ という質問、クレームにさらされたこと。②肝心の電話名簿を自力でタウンページから検索作成をせざるをえなかったことから、二度目からは名簿の重複が発生し、その照合は人海戦術と記憶に頼るしかなかったこと（年末年始にはNTT回線からブロックされる経験も・・・）。③先方との書類の送受信をすべてFAXにしたことから、結果、大量の紙の山に囲まれ、これ又、解決には人海戦術に頼るしかなかったこと・・・などでした。

5. 愁眉を開いた新年の朗報

しかし、皆さんが落ち着いて混乱した事態に対処していただいたからか、年始になって聞いた2ヶ月間の結果は、架電83,000件、調査60,000件、AED所有4,800件(8%)（所有の内、登録可が1,300件、登録を検討するが2,500件）という着実な内容のものでした。

又、肝心の登録についての最終回答は、年始の時点で登録可2,300件（内、公開可2,200件、一般市民の活用可1,700件）で、既にAEDマップに登録済の1,200件との合計は3,500件を超えつつあるということがわかりました。

このまま頑張れば、これは予想以上の成果があがるのではないかと、皆さんおおいに元気づいた瞬間でした。

6. 新たなるスタート

新年からはいよいよ最難関と予想される「民間企業」に電話をしていきますが、この2ヶ月間の経験を十分に活かして取り組んでまいります。

特に、これからの3ヶ月は、今までのFAXを中心とした個別登録方法から、企業社会向きのメールを中心とした一括・複数登録方法へ思い切って切り替え、謙虚にきめこまかく対応して、各企業のご理解を得ていきたいと考えています。

最終結果がどうなるかはさておき、この事業が大阪府下の救命率向上、又、協会の認知度向上に直結するものと信じ、70人力を合わせて最後まで真摯に取り組んでまいります。

会員の皆様には引き続きのご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



2009.9.20「救急防災フェスタ 2009～AEDを学ぼう～」報告

京都大学保健管理センター：北村哲久/石見拓



皆様、お初にお目にかかります。
京都大学の北村と申します。このたびは
昨年9月20日に行いました大阪ライブ
サポート協会のイベントである救急防災
フェスタ2009～AEDを学ぼう～を担当
させていただきましたので、ご報告申し上げます。

大阪ライブサポート協会では、PUSHプロジェクトをは
じめとする様々な心肺蘇生講習会を提供するとともに、
更なる心肺蘇生の普及を目的として様々なイベントを
実施しておりますが、今回PUSHプロジェクトの一環とし
て、小中高生やその保護者を対象とした、いのちの大
切さを説き、同時にPUSH講習会を開催するイベントを
行いました。場所は大阪南港にあるATCの300人収容
可能なAホールにて、株式会社フィリップスエレクトロニ
クスジャパンをはじめ多くの企業に協賛いただき、また
大阪府や大阪市などの後援を得て大規模なイベントを
実施することが出来ました。

秋の連休のはじめであり、また新型インフルエンザが猛
威を振るっている時期でもあって集客が危ぶまれました
が、PUSH講習会には約250名、イベント全体では、延
べ800人もの一般市民の方々に参加していただくこと
が出来ました。

オープニングイベントとして、四条畷学園高等学校
吹奏楽部による演奏が行われました。四条畷学園吹奏
楽部は数々のコンクールで賞を獲得しており、その演
奏は素晴らしく、多くの聴衆を集めることが出来ました。

続いて第1部の講演では、「講演会：AEDってなに？
なぜ今AEDが必要か？」をテーマに、生還者から
のメッセージとして、AEDで救命された関西学院中学
部講師西岡先生のお話や、国士舘大学の高橋先生には
東京マラソンでのAEDの使用経験のお話をしていた
だき、実体験を交えた説明に多くの参加者が聞き入
っていました。

第2部では、当協会インストラクターである帝塚山学
院小学校の阿野先生によって、PUSH講習会が行われ
ました。200名を超える参加者が、同時に『あっぱくん』
を押して胸骨圧迫を体験している様子は圧巻で、多く
の人が楽しみながら心肺蘇生を学んでいました。

第3部は、「学校での心肺蘇生教育の実際(PUSH講習
会開き方講座)」として、学校関係者を対象にした心
肺蘇生の指導の仕方についての講習会を行いました。
学校での具体的な取り組みを紹介しながら、どのよう
に心肺蘇生を指導し、広げていくのかを、各講師の先生
方にお話していただきました。参加者の皆様からも多く
の質問が出て、活発に議論を行う事ができ、盛況の内

にイベントを終えることが出来ました。



<PUSH講習会の様子>

本イベントでは、上述の講習会だけでなく、ATCの
広場や駐車場で、体験イベントも行われました。イベ
ントブースは、「通報」「心肺蘇生法の習得」「AEDの
使い方」「救急隊体験」の4つに別れており、「通報」
ブースでは救急隊の119通報体験、「心肺蘇生法の
習得」では『あっぱくん』を用いた簡易蘇生法体験、
「AEDの使い方」ではAEDトレーナーを用いたAED
使用法の学習、「救急隊体験」では大阪市消防局の
協力により、起震車やハシゴ車の試乗など救急や防
災に関する様々な体験を受けることができ、これらの
体験イベントでは、ACTに遊びに来た多くの市民の
方々にも立ち寄って参加していただきました。

救急防災フェスタ2009は、ライブサポート協会が新
体制になって初めての規模なイベントであり、まだ
まだ改良すべき点は多くあると思いますが、2ヶ月ほ
どの短い宣伝期間であったにもかかわらず、多くの市
民の方々に参加していただきました。心肺蘇生の普
及には、このようなイベントや講習会を地道に積み重
ねていくことが重要であり、今後も市民の皆様に興
味を持っていただけるように努力していきたいと思
います。

又、今後も協会としてはイベントを続けていく予
定ですので、その際は積極的なご参加、ご協力のほど
よろしく願いいたします。



<起震車に試乗♪>



「全国でPUSH！」運動をスタート

PUSH運営委員会委員長
京都大学保健管理センター 石見 拓

誰でもできる『胸骨圧迫のみのカンタン救急蘇生法』を普及させることで、突然心臓が止まってしまった人を救命できる地域を作るとともに、『いのちを大切にすること』を育てていくことを目的としたPUSHプロジェクト

(<http://osakalifesupport.jp/push/index.html>)が始まって、早くも1年が経過しました。みなさまのご協力のおかげで、PUSHの輪は確実に広がってきています。

そこで、プロジェクト開始から1年が経過した2009年9月の救急週間にあわせ、全国のPUSHプロジェクトの趣旨に賛同してくれる仲間と共同で、全国一斉にPUSH講習会を開催するという取り組みを行いました。

9月6日に札幌、仙台、水戸、秋葉原、八丈島、沼津、名古屋、京都、大阪、岡山、呉、坂出の合計12カ所で、一斉にPUSH講習会を行うというもので、大きな反響があり、各地の取り組みが新聞やテレビ等でも紹介されました。大阪では、後述の通り、医学生が小学生に紙芝居でいのちの大切さを伝えてくれるなど、とても新鮮で印象的な光景もありました。

こうしたイベントを行うことで、今まで以上に多くの方々に、心肺蘇生法を身近に感じていただくとともに、全国どこでもPUSH講習会を受けることのできる仕組みを作っていきたいと考えています。

イベント開催後、9月19日には、全国でPUSH講習会を開催してくれた仲間が集まり、今後のネットワーク作りについて意見交換を行いました。

本年度は全国でPUSHネットワークを充実させることで、大阪発の『救命のこころ』を全国に拡げていきたいと思えます。更に、世界でPUSH！も目指していきます。毎年9月の救急週間（2010年は9月5日予定）には全国でPUSH！を根付かせたいと思えますので、みなさまもご参加下さい！！



<紙芝居を真剣に聞く子供たち>

PUSHプロジェクト副委員長 前重 壽郎
大阪医科大学医学部医学科3年生 岸森 健文

昨年9月6日、日本全国でPUSH講習会が行われました。大阪では住之江区の少年野球チーム「住之江ウルフ」の子供達と保護者にPUSH講習会を行いました。

住之江ウルフは、2007年4月、高校野球春季大会の試合中に胸に打球を受けて心停止となり、バイスタンダーによる心肺蘇生とAEDで一命を取り留めた上野貴寛さんが所属した少年野球チームです。

当日はまず、医学生による命についての紙芝居で心臓の働きを学び、その後、聴診器で自分たちの心臓の音を聞きました。紙芝居を食い入るように見る子供達の瞳や、聴診器で心音を聞きながらニコニコ笑っている姿がとても印象的でした。

上野さんから「野球をしていても、遊んでいても突然のまさかが起こることを覚えておいて下さい」とのメッセージをいただき、その後親子でPUSH講習会を行いました。子供達は、紙芝居や上野さんのお話で命の大切さをしっかりと感じ講習会に臨めました。

以下は紙芝居制作をしてくれた岸森健文さんの言葉です。次号の会報では、制作についての苦労などをうかがう予定です。

~~~~~

前重さんより「小学生へPUSH講習会をするので、医学生でなにか企画をしてみないか」というお誘いをいただいたのは8月のことでした。かねてより小学生向けになにかやってみたくて言っていた戸上由貴さん(大阪市立大学医学部医学科第4学年)と共にこの企画をやることになりました。

私のもっとも伝えたかったことは、「命の大切さ」でした。小学生には心肺蘇生法を学ぶ前に、「人間のからだの中はどうなっているのか?」「何故心臓が正しく動かなくなったら死んでしまうのか?」「何故いのちは大切なのか?」を考えてみるのが重要ではないかと考えたからです。

これらが正しく伝えられたかどうかはわかりません。しかし、紙芝居という手段を使ったことで小学生たちに楽しく、できるだけ噛み砕いて伝えられたのではないかと思います。

You Tubeにアップしてありますので、是非一度ご覧ください。そして、更に良いものになるように、ご意見を戴きましたら幸いです。

(<http://www.youtube.com/watch?v=uJXnyORu7Hw>)





## AHAコースからの報告

よしだレディースクリニック 吉田 雅代

皆様、新年おめでとうございます。AHA コースの話が持ち上がってから1年がたちましたので、この1年を振り返っての雑感を書いてみたいと思います。

昨年1月、怒涛のインストコースが終了しました。それと同時に4月からのAHAコース開催が決まりました。準備の時間はわずか3ヶ月。大阪ライフサポート協会のコースのひとつとしてできるだけ早く自立するために、ACLSを担当する人、BLSを担当する人にわかれ、少しでも経験を積むべく、関東や、福井の日本蘇生協議会AHA国際トレーニングセンターの拠点に出かけて行きました。

しかしながら、当初考えていたように、すぐにでもコース開催可能できるようになるというのは全くの錯覚であることに誰もがすぐに気がつきました。それは、AHAコースのインストラクション手法が、これまで私たちが行ってきた手法と全く異なっていたからです。それで、当面は日本蘇生協議会AHA国際トレーニングセンター主催という形で、開催要領や、インストラクターとしてのノウハウを学ぶことになりました。

4月から7月までの4ヶ月間は、日本蘇生協議会AHA国際トレーニングセンター独協医科大学越谷病院救命センターの池上敬一先生、筑波大学付属病院の松本尚浩先生に直接指導を受け、ある時ははめられて舞い上がり、ある時は厳しい指摘を受けて落ち込みながらも、インストラクター修行を積んで参りました。そして、7月から、事務の上では大阪ライフサポート協会の主催でのコース開始となり、その後、11月からは日本蘇生協議会AHAトレーニングセンターからのファカルティの派遣なしでの開催が許可されました。長かったようで短かった1年でした。

しかし、自立開催を始めたといっても、3回目と回数はいくつか少なく受講者実績もこれからですので、まだまだ精進を重ねていかなくてはならないと考えております。

コースの開催実績ですが、2009年4～6月は、日本蘇生協議会AHAトレーニングセンターの主催コースとしてACLS 3コース25名、BLS 3コース34名が受講、2009年7月～2010年1月までには、ACLS 4コース25名、BLS 9コース81名が受講されました。

この間、開催にご協力いただきましたのは、大阪医科大学様(新講義実習棟にて)、住友病院様(看護学校にて)、愛仁会高槻病院様(看護助産専門学校にて)

て)、神鋼病院様、西神戸医療センター様でした。この紙面をお借りして厚く御礼を申し上げますとともに、これからの引き続きのご協力もお願い申し上げます次第です。

また、AHAコースが開催されてまもなく、事務局スタッフの交代という事態に直面いたしました。松本次長さんのふんばりと、HP担当の彼末さん、新規に加わった熊本さんのご尽力で、迅速なコース開催案内の掲載が可能となり、複雑な事務処理、日本蘇生協議会とのやりとりもスムーズに行なえるようになり感謝しております。

ともにご奮闘いただいたAHAファカルティの西本先生をはじめとするインストラクターの皆様にも、これまでのご尽力に感謝いたします。皆様には、2010年度もお世話になります。よろしくお願いいたします。

4月から始まる新年度のコース開催については、現在、AHA委員会で議論を交わしているところでございますが、第4土日を基本にコース設定を行い、これまで以上に魅力あるコースを考えていきたいと思っております。お近くにAHAコースに興味をお持ちの方がおられましたら、なにとぞ、大阪ライフサポート協会のAHAコースをご紹介くださいませ。



<ハートシムを用いてのACLSコースの様子>

昨年の秋から、AHAコースに学割制度を導入いたしました。

- ・BLS ¥15,000 → ¥14,000
- ・ACLS ¥40,000 → ¥36,000

団体割引もございますので、詳細は、大阪ライフサポート協会までお問い合わせ下さいませ。よろしくお願いいたします。





## 「応急手当コース」の企画・進捗状況

コース設定運営委員会 小林 正直

会員の皆様、明けましておめでとうございます。コース設定運営委員会からは、応急手当コースの企画進捗状況について報告いたします。メーリングリストである程度情報が流れていると思いますので、ここでは新しいコースを開始することになった経緯と理念に重きをおいて書かせていただきます。

当協会は設立以来、心肺蘇生とAEDを主体に講演・講習を展開してきました。しかしながら、いかに頑張ろうとも、心停止の人を社会復帰に導くことは容易ではないとされています。“心停止患者の社会復帰率向上”このテーマにたいする当協会の取り組みは今後も変わるものではありませんが、心停止を予防するという概念が非常に重要になっています。

一方で、救急外来のコンビニ化、救急車のタクシー化による医療への圧迫、モンスター・ペイシエントの増加など、医療職のモチベーションは低下し、医療は萎縮の方向に向かっていくこともしばしば問題としてとりあげられています。

“The right patient in the right time to the right place”これは、重症外傷者の治療原則である「3つのP」で、傷病者を正しく選別し、適切な時期にしかるべき施設へ搬送することによって防ぎ得る死を救命できるという考えです。この3Pの考え方は日頃の急病やちょっとしたケガにも当てはまると私は思っています。たとえば、夜中の3時に38.5℃の熱が出た30歳男性が、いきなり大学病院の窓口を訪れるケース...結構あるんですね。3Pで考えれば、夜が明けから、近所の診療所を受診するのが最良のケースです。

このようなことがなぜ起きているのでしょうか？昔はこんなことはなかったと思います。核家族化が原因の一つと言われており、昔でしたら、家のお婆ちゃんが正しい対処方法を教えてくれたものです。もう一つの原因は、日本の教育体制に問題があるのではないかと私は考えています。保健体育等で、きちんと教育がされていないのです。一番典型的な例は指先を切ったといって、輪ゴムでぐるぐる巻きにして受診する人が後を絶ちません。

どんな時に救急車を呼んだらいいのか、そんな時の応急手当はなにをしたらいいのか？どんな時、すぐに病院に行ったらいいのか、病院や診療所が開くまで待っていていいのか？実は日本の教育ではきちんと教わっていません。きちんとした教育がないということは、そこにニーズがあるのではないかと私達は

そのように考えました。

人間が行動を起こすにあたって必要な領域が3つあると考えられています。すなわち、知識・技能・態度にわけられます。心肺蘇生に関して言えば、知識があっても、胸を押す技能、とっさの時に119番を押すことができる勇気がないと達成できません。ですから、心肺蘇生に関していえば、どこでも講義より実技に重点がおかれています。これに対して、応急手当には技能も必要ですが、知識の部分がもっとも重要ではないかと考えられます。

以上のような背景があり、当協会では講義を主体として応急手当に関する教育を提供していこうと考えるに至りました。もちろん、講義形式にすれば、少ない人手でそれが達成できます。費用対効果比の概念でいえば、応急手当コースは心肺蘇生講習会に比べてとても魅力的です。本コースのベータ版を聴かれた一般市民の方からは「とても勉強になった」と高い評価を頂いています。

気をつけないといけないのは、いかにポイントを絞るかです。消防の普通救命講習会を引き合いに出して申し訳ありませんが、伝える方法として、できるだけシンプルに、あえて必要なことだけに絞りたいと思います。その理由は、先に述べました輪ゴムのことでご理解いただけるとと思います。

結論としまして、35分程度の時間(PUSH講習会との抱き合わせで休憩時間含め、合計で90分)に納め、主な対象を学校の先生や府の職員などとし、下記の標準カリキュラムを設定しました。

### 【標準内容】

圧迫止血、熱傷、窒息、回復体位(意識障害)、胸痛、脳卒中、119番の必要な時・タイミングとし、それ以外はオプション設定とします(例えば夏休み前なので溺水を入れて欲しい等の要望に応える)。

### 【オプション】

傷の手当て、溺水(助け方・引きあげた後)、けいれん・熱性けいれん、熱中症、下痢・嘔吐、たばこ誤飲(おもに予防)、アレルギー反応、呼吸困難(おもに喘息)、搬送方法(頸椎保護など)、鼻出血、めまい・ふらつき・失神

さすが、NPO大阪ライフサポート協会といった内容にしたいと思っています。開始は2010年4月です。

乞うご期待！





## 「あっぱくん」開発チームからのメッセージ

いまや、「明るく・楽しい」こてこて関西弁のインストラクター達と共に、大阪ライフサポート協会名物のひとつとなりつつある『あっぱくん (CPR training box)』の開発チームから、新年の抱負やご挨拶を送ります。

『あっぱくん』はPUSHプロジェクトを展開するために欠かせない、簡易型の心肺蘇生トレーニングキットとして、約1年間の開発期間を経て、2009年8月にデビューしました！ 開発から販売に至るまで、まさに技術力・想像力・機動力のパワーあふれる下記メンバーが中心となって取り組んできました。斬新なデザインの基本は、HAL大阪の学生さん達が作ってくれたものです。

何とか、お金のない学校でも心肺蘇生講習を実現できるような教材を作りたいとの思いを胸に、試作、試作で失敗を繰り返しながらそれぞれがノウハウを全力で発揮してここまでの商品化に至りました。

『あっぱくん』は、心肺蘇生法を身近に、あたりまえのものとして、多くの人に知ってもらいたいという大阪ライフサポート協会の思いが形になったものです。今年、『あっぱくん』を活用して、今まで以上に多くの方々に、心肺蘇生法を知っていただきたいと思ひます。

『あっぱくん』開発チーム リーダー 石見 拓

このプロジェクトは、従来の人形に代わる安くて簡便な心肺蘇生トレーニングモデルを作れないかとの小林先生、石見先生の打診からスタートしました。どんなノウハウやチームで開発していくか検討し、様々な方に相談しました。正直、国内生産においては、どの角度から見てもミニアンにはかないませんが、最終的に発泡体の加工技術を持ち、物創りのノウハウのある富田さん、川村さんに相談してみたところ、検討してみようと言うことになり、『あっぱくん』を生み出すことが出来ました。

当初は価格面でも 1000 円ほどと安いものを考えましたが、それも技術面や価格面での障壁も多く難題でした。しかし、何度も何度も開発会議や試作を繰り返した結果、一番の課題であった心臓部の構造がふとひらめきました。それは心臓部を風船構造から大きく視点を変えたウレタン発泡体そのものにするのでした。これならいけると、あふれるようにひらめきが生み出されていったのです。心臓部をピンクのハート型にすること、裏返しにすると弱い力でも音が鳴るようにしたこともひらめきの一つです。

また、これまでのトレーニング人形とは一線を画す、箱型のパッケージもデザイナーの提案により斬新な形に仕上がりました。世界のどこを探してもな

い簡易型の心肺蘇生教育教材の完成の瞬間でした。

2010年度はこの「あっぱくん」を学校の教材として定着させるための活動を展開していきます。一人一箱の個人教材として、毎年何万個、いや何十万個を全国の学校へ普及させることが目標です。この教材を通して将来を担う学生たちに命の大切さを知ってもらえたらと心から願っています。 —仁科 真

2008年の漢字一文字は「変」であったように思う。世の中が偽造とか偽りとかで良いニュースがなかったが、我々はそんな事をよそに着々と人命救助のため「あっぱくん」の開発に取り組み、正に「変換」の年になりました。

そして、ついに2009年8月、開発チーム全員の創意工夫を集めて「あっぱくん」の発売にこぎつけました。これぞ「新」に相応しい、一つの時代を到来させるものと確信しております。

「新しい」と言う言葉の中には夜明け、そして黎明というように、新時代の始まりという力強さがあり、開発チーム一同は石見リーダーを中心に2010年は新市場への開拓に全力を尽くし、出来るだけ多くの人に「あっぱくん」の商品知識を知ってもらい、人命救助に努めたいと願っております。

皆さん、出来るだけ多くの方が我々の運動に参画して下さるよう願っております。 —富田圭二

ライフサポートの皆様こんにちは。日頃のご活躍に深く心を打たれる思いです。

私は「あっぱくん」の開発、特に心臓部ピンクの発泡体の担当をしました。ハートの形状、厚み、硬さ等、石見先生ご指導のもと、何とか製品化に至りました。来年からは、少しでも貢献出来るよう、販売に力を注ぎたいと思ひます。これからもよろしくお祈りします。 —川村昌也



左から：川村治義さん、末永さん(事務局)、石見先生、富田圭二さん、川村昌也さん、仁科真さん

大阪ライフサポート協会会員やインストラクターの皆さん！

これからも皆様のご協力をよろしくお祈り申し上げます。 —「あっぱくん」開発チーム一同



## <救命の現場から>



2009.11.2 JR 大阪駅前での救命措置について



東住吉森本病院 看護師 花田 亜矢子

私は友人と大阪駅近くの店で食事をした後だったので、JR大阪駅御堂筋口の緑の窓口の近くに人だかりができていて「何だろう」と思い近づいていくと、道に横たわっている人がいて、その周りには警察や駅員さん含め多くの人が集まっていました。

倒れている人を見ると何か喘ぐような呼吸をしており「何かおかしい」と思い、反応を確認しても反応はなく、呼吸・脈触知するも心停止であったため、「こりゃあかん！」と思い「AEDと救急車をよんでください！」と伝え、すぐに胸骨圧迫を開始しました。すると次第に患者さんの首元が青ざめてきて、「自分の胸骨圧迫の仕方が悪いのか・・・」と思い、とにかく強く押し続けました。フェイスシールドも使い 30:2でCPRを続けました。

しばらくしてAEDを駅員さんが持ってきてくださったのですが、持ってきてから何をしていたのかかわからない様子であったため、口頭で指示を出しながら作業を行いました。「除細動が必要です」とナレーションが流れ、電気ショック後ただちにCPRを再開しました。しばらくすると、看護学生さんと看護師さんが応援に来て下さり、胸骨圧迫を交代してもらい私はCPRの質の評価をしていました。

AEDの2分後の解析が始まり、「除細動不要」で再度CPRを開始したところで救急隊の方が到着し、胸骨圧迫をかわってもらったのですが、手足が動き体動が確認できたので胸骨圧迫を中止し、脈触知もできたためBVMでの吸管理を続けてもらいました。救急隊のリーダーの方に今までの流れを報告し、患者さんは救急車で搬送されました。

その後警察の方に、いつ患者さんは倒れたのか聞くと「(午後)8時30分ごろだったと思います」と返事があり、私がCPRを開始したのが午後8時40分であったため倒れてから約10分間心停止が続いていたのかもしれないと思い、心拍再開してもADLがどの程度回復するだろうか・・・とすごく不安になりました。

しかし、それから約3週間後に、救急隊の方から「無事軽快退院された」と報告を受け、ものすごく嬉しい気持ちで一杯になりました。後に救急隊の方の計らいで傷病者の方と電話で会話した際も、元気にされていると伺いました。

「たとえ心拍が再開したとしても、自分がもう少し早くその現場に居合わせていたらもっと早くに救命措置を行えて、脳へのダメージをもっと予防できたかもしれないのに」と悔やんでいたのですが、安堵の思いがあふれました。

あらためて振り返ると、一瞬の出来事ではありましたが、自分がインストラクターとしてBLSを経験してきたからこそ現場で実践できたのかなと思います。でも自分が第一発見者になることはほとんどないと考え、より多くの一般市民の方々がBLSを行えるという強みは何にも変えがたいことだと思います。

ライフサポート協会での活動というのは、知識を広めるというだけでなく一般市民の方々に自信と意欲をもたせる、とても大事な場であると思います。あれだけ多くの人が集まる大阪駅でも、応援が集まらないこともあるので、それならば一人でもより多くの方々にBLSを経験してもらえる活動をこれからも続けていかなければならないと痛感しました。

今回患者さんを無事蘇生できたのは、その場で協力してくださった皆様のおかげですし、私を支えてくださった様々なインストラクターの方々のおかげであると思っています。これからも多くの方々に今回の事例を伝え、BLSを身近に感じてもらえたらと思います。これからもどうぞよろしくおねがいいたします。

当協会会員の花田亜矢子様、現場で冷静に判断され、迅速に行動されたことに敬服いたします。その勇気ある行動が尊い命を救ったことは、会員全員の誇りです。ありがとうございました。  
NPO 大阪ライフサポート協会理事長  
西本 泰久

花田様には協会より感謝状を贈呈いたしました。(事務局注)



## ディレクター・インストラクター自己紹介

大阪ライフサポート協会に關係する全ての皆様、おつかれさまです。阪大病院ICU看護師 小嶋(こさき)緑です。

昨年はAHAに始まりAHAに終わってしまったような気がしますが、ライフでの1年はとにかく長かったです。だけどAHAを通してたくさんの方との出会いがあり、更には学びも多かったように思います。AHAばかりにはまらず通常コースやPUSH講習会にも参加して泣きメールを流したり、普通では到着しそうな遠い場所へも相乗りさせてくれる優しい仲間もいて、昨年1年は楽しく有意義に(時々ハラハラ…)コースに関わることができました。今年も時間があればできるだけ多くのコースに参加していきたいと思ひます。

私はライフの白ポロが大好きです。あちこちでいろんなデザインのものがありますが、どんな色にも染まる、何にでも合う白ポロが一番好きです。それぞれのコースで出会う人達の持つカラー、コースのカラーを大事にしながら、大阪のおばちゃんパワーで頑張っていきたいと思ひますので、一緒にするかもしれない皆様 今年も一年よろしくお願ひ致します。



アホですんません。いつもお世話になり有難うございます。小高剛至です。

### ・コース参加の目的は？

社会復帰を増やす事です。救命出来なかった悔しい症例を多数経験し、勉強と社会への恩返しのために参加し始めました。

・なぜ大阪に？ ..小高さんは首都圏で勤務(事務局注)気合いの入った方々が受講生の事を考えて工夫し、質が高く楽しいから。モチベーション維持にも効果的です。皆さんがとても自然に他人を気遣っている事も尊敬します。

### ・本当は大阪で野宿している？

そうそう。公園にダンボールで家を作ってるから最近では寒くて...じゃなくて、勤務後に大阪に向かい、休診日等を利用して参加します。

もちろん、関東のコースにも参加しています。

### ・仕事の内容は？

救命救急センターで行う内視鏡治療の介助や超音波などの生理検査が専門分野です。現在の勤務先では中央検査部との兼任ですが、不完全燃焼中です。目下の関心事は、院内急変対応と資機材消毒方法の改善です。

皆さん、こんにちは。龍野高史@堺海保です。あるきっかけで某痛風のお方と知り合いになり、勧められたのがきっかけでライフサポート協会に入会し、活動を開始して5年目になりました(ついでに痛風もうつさされましたが...)。この間、いろいろな受講生の方と一緒に学び、今でもそうなのですが、気づかされる事が多く「果てはない」というのが市民講習の醍醐味なのでしょうか。

今までの講習の中で特に印象に残っているのは、20数年前にご主人を亡くされた70歳半ばの女性の方です。自宅で急に虚脱してそのまま亡くなられたという事でした。

AEDの普及し始めの頃で、突然心臓死の話聞き、ご主人が倒れた時に何もできなかった...、もしAEDがあれば助かったかも...、自分でもできるだろうか...、できるようになるためには今からでも遅くない...、学ぼう...、という気持ちと行動には非常に感銘を受けました。

あと、私事ですが、私の部下が受講した翌朝の出勤時に事故で亡くなってしまったのですが、後日、家族の方から、受講後の夜も、翌朝も、ずっと講習でのこと、AEDのこと、広めることの重要性の話をして...と聞き、胸の痛む思いがしました。講習終了後、言葉を交わせずに別れたのですが、事故時に所持していた受講証は何を意味するのでしょうか、存命なら、今頃一緒に活動していただろうと思うと残念でなりません。

思いを連ねると尽きないので、受講後の笑顔、全国で人気の北海道の某ローカル番組のバクリですが、辿り着いたらそこがスタート...、「一生ライフサポートします!」。皆さん、一緒に学びましょう!



熱田恵美です。「看護師だし、AEDを使えるようになっておきたい」と市民Aコースを受講したのが約2年前。そして「なんて楽しい講習!こんなに楽しくAEDの使用法を伝えられるなんておもしろい。私もやりたい!」と思ったのが、インストラクターになったきっかけでした。(この時の担当は小嶋さんで、今の私の目標です。)

市民コースは、医療従事者対象とは異なり、仕事や医療に関する知識、年齢、体力や体調、体の不具合なども様々で、その分、個人個人に合った目標設定や講習時の状況設定にも工夫が必要です。未熟な私にはまだまだ難しく、他の先輩方に教わりながら修業の日々...。そんな私の目標は受講生の方に楽しんでもらうことと、私自身も楽しむことです。

これからも、夫ともうすぐ4歳になる娘の「がんばってね!」に支えてもらいながら、私にできる範囲で楽しくインスト活動をしていきたいと思ひます。





## 2009年4～12月の講習会活動実績と、2010年1～3月の活動予定

昨年度の講習会実績と3月までの予定(判明分)をお知らせします。メール・HPで早めにお知らせするよう努力してまいりますので、引き続き積極的なご参加をよろしくお願いいたします。(事務局)

### 2009年(実績)

| 月  | 日   | コース      | 参加実数 |
|----|-----|----------|------|
| 4月 | 11日 | AHA      | 11   |
|    | 12日 | #        | 9    |
|    | 16日 | 講演会+PUSH | 27   |
|    | 18日 | PUSH     | 2    |
| 5月 | 2日  | PUSH     | 1    |
|    | 3日  | 市民A/B    | 18   |
|    | 16日 | AHA      | 9    |
|    | 17日 | #        | 11   |
| 6月 | 4日  | PUSH     | 12   |
|    | 6日  | PUSH     | 3    |
|    | 8日  | PUSH     | 42   |
|    | 10日 | 市民A/B    | 14   |
|    | 17日 | PUSH     | 23   |
|    | 21日 | 市民A      | 19   |
|    | 27日 | AHA      | 13   |
|    | 28日 | #        | 8    |
| 7月 | 1日  | PUSH     | 137  |
|    | 4日  | 市民A      | 43   |
|    | 6日  | PUSH     | 27   |
|    | 8日  | 市民A/B    | 12   |
|    | 9日  | PUSH     | 63   |
|    | 12日 | 指導者養成    | 6    |
|    | 13日 | PUSH     | 77   |
|    | 15日 | 市民A      | 20   |
|    | 16日 | 指導者養成    | 20   |
|    | 16日 | PUSH     | 42   |
|    | 18日 | PUSH     | 11   |
|    | 25日 | PUSH     | 30   |
|    | 25日 | AHA      | 19   |
|    | 26日 | #        | 6    |
|    | 29日 | 市民A/B    | 9    |
|    | 31日 | PUSH     | 26   |
| 8月 | 1日  | PUSH     | 2    |
|    | 5日  | 市民A/B    | 16   |
|    | 6日  | PUSH     | 42   |
|    | 9日  | 小児BLS    | 26   |
|    | 12日 | PUSH     | 42   |
|    | 12日 | 市民B      | 40   |
|    | 15日 | AHA      | 17   |
|    | 19日 | PUSH     | 28   |

|     |     |            |     |
|-----|-----|------------|-----|
|     | 19日 | 市民B        | 40  |
|     | 21日 | 市民B        | 50  |
|     | 21日 | 市民B        | 47  |
|     | 22日 | 指導者養成      | 11  |
|     | 24日 | 市民B        | 34  |
|     | 25日 | 市民B        | 53  |
|     | 25日 | 市民B        | 13  |
|     | 25日 | PUSH       | 48  |
|     | 25日 | PUSH       | 28  |
|     | 26日 | PUSH       | 16  |
|     | 26日 | 市民B        | 25  |
|     | 27日 | 市民B        | 31  |
|     | 29日 | 市民B        | 34  |
| 9月  | 2日  | PUSH       | 12  |
|     | 2日  | 市民B        | 42  |
|     | 6日  | 市民B        | 45  |
|     | 6日  | AHA        | 6   |
|     | 6日  | PUSH       | 86  |
|     | 11日 | PUSH       | 15  |
|     | 11日 | 市民B        | 43  |
|     | 12日 | 市民B+医療     | 27  |
|     | 13日 | 市民B        | 55  |
|     | 20日 | イベント(PUSH) | 358 |
|     | 26日 | PUSH       | 17  |
|     | 29日 | 市民A/B      | 11  |
| 10月 | 3日  | PUSH       | 20  |
|     | 3日  | PUSH       | 17  |
|     | 7日  | 市民B        | 18  |
|     | 9日  | 市民B        | 46  |
|     | 10日 | 市民B        | 30  |
|     | 11日 | 市民B        | 39  |
|     | 14日 | 市民A/B      | 18  |
|     | 17日 | PUSH       | 42  |
|     | 18日 | 市民B        | 33  |
|     | 24日 | イベント       |     |
|     | 24日 | PUSH       | 7   |
|     | 25日 | 指導者養成      | 2   |
|     | 27日 | PUSH       | 54  |
| 11月 | 9日  | 市民B        | 69  |
|     | 11日 | 市民A/B      | 7   |
|     | 14日 | 市民B+医療     | 9   |
|     | 16日 | 講演会        | 約60 |
|     | 18日 | PUSH       | 15  |

|     |     |          |    |
|-----|-----|----------|----|
|     | 18日 | 市民B      | 35 |
|     | 18日 | PUSH     | 40 |
|     | 21日 | AHA      | 18 |
|     | 22日 | #        | 9  |
|     | 25日 | 市民A/B    | 39 |
|     | 27日 | PUSH     | 48 |
|     | 28日 | 講演会+PUSH | 77 |
| 12月 | 5日  | 市民B      | 20 |
|     | 9日  | 市民A/B    | 9  |
|     | 11日 | 市民B      | 40 |
|     | 12日 | AHA      | 7  |
|     | 13日 | #        | 5  |
|     | 15日 | 講演会      |    |
|     | 19日 | PUSH+指導者 | 6  |
|     | 22日 | PUSH+指導者 | 54 |
|     | 29日 | PUSH     | 45 |

### 2010年(予定)

|    |     |       |     |
|----|-----|-------|-----|
| 1月 | 9日  | 医療従事者 | 29  |
|    | 13日 | 市民A/B | 10  |
|    | 16日 | AHA   | 15  |
|    | 17日 | #     | 5   |
|    | 20日 | PUSH  | 13  |
|    | 20日 | 市民B   | 48  |
|    | 31日 | 指導者養成 | 10  |
| 2月 | 4日  | 医療従事者 | 16  |
|    | 6日  | PUSH  | 10  |
|    | 10日 | 市民A/B | 10  |
|    | 13日 | AHA   |     |
|    | 14日 | #     |     |
|    | 17日 | PUSH  | 20  |
|    | 20日 | PUSH  | 10  |
|    | 21日 | 医療従事者 | 100 |
| 3月 | 6日  | PUSH  | 10  |
|    | 10日 | 市民A/B | 10  |
|    | 12日 | 市民S   | 114 |
|    | 20日 | 指導者養成 | 10  |
|    | 26日 | 市民B   | 100 |
|    | 27日 | AHA   |     |
|    | 28日 | #     |     |





## 事務局からのご連絡

### ■1月現在の会員状況

正会員 168 名、賛助会員(個人)66 名、(法人)19 団体、特別会員2団体

(引き続き、会員の拡大、会費ご入金についてご協力をお願いします)

- ・認定ディレクター:46 名
- ・認定インストラクター:140 名
- ・ブレインストラクター:28 名
- ・アシスタントインストラクター:24 名

### ■ご寄附・助成のお知らせ

8月以降の状況は下記のとおりです。ご厚志に心より感謝を申し上げます。

- ・9月 財団法人毎日新聞大阪社会事業団様
- ・10月 セント・ジュード・メディカル株式会社様

**助成金**

・1月 西日本高速道路エリアパートナーズ倶楽部様  
西日本高速道路サービス・ホールディングス(SHD)株式会社と SA・PA の店舗運営をしているテナント 53 社で構成される上記の倶楽部から「AED 講習会支援金」の助成をいただきました。今回は近鉄観光(株)、(株)デイリーヤマザキ、(株)松屋フーズの三社からご支援をいただき、先般、安宅副理事長に目録の贈呈をお受けいただきました。



### ■「あっぱくん」の PR チラシを一新！！

「あっぱくん」と PUSH PROJECT との関係を一層明確にし、説明しやすく、制作趣旨も理解しやすいよう、又、税込 2,625 円(1ヶ)も明記した新しい PR チラシを作成しました。

詳細は HP でご確認いただき、一層の普及にご協力いただければ幸いです。



### ■AEDマップ調査事業部門所在地

大阪市東淀川区東中島 1-6-14  
新大阪第2日大ビル4F

(地下鉄「西中島南方駅」から東へ徒歩 7~8 分。  
JR のガードをくぐって「東中島2西」交差点西北角)  
06-6815-7700

3月末までの臨時事務所です。お気軽にお立ち寄りください。(事務局の松本、彼末が半常駐)

### ■忘年会のご報告

12月19日(土)、恒例の忘年会が「プリムローズ大阪」にておこなわれ、約 30 人が参加し、この一年の労をねぎらいあいました。

又、それに先立ち、本文でも紹介された「応急手当コース」の勉強会がおこなわれ、概要の紹介と質疑応答など、大変有意義なひとときを過ごしました。

### ■職員の退職

村上あいさんが一身上の都合で、10/15 付で退職されました。ご厚情、有難うございました。

### ■編集後記

今回の会報は、当協会にとって激動の1年であった2009年を象徴するような盛りだくさんな内容になりました。

当協会は設立から4年を経過し、本格的に多角的な事業への取り組みを始めております。AED マップ事業、イベント開催、PUSH プロジェクト、AHA コース、応急手当コース、あっぱくん開発、どの事業もなかなか一筋縄ではいかず紆余曲折があり、まだまだ乗り越えなければならない問題も多く存在します。

これからも皆様のお力をお借りする機会が多いと思われま。今後とも当協会をご支援賜わりますようお願い申し上げます。会員の皆様には、これからも会報を通じて情報発信ができるよう頑張ります。

会報委員長 副理事長 岸本正文

### 《発行・編集》

NPO法人 大阪ライフサポート協会 事務局  
〒533-0033 大阪市東淀川区東中島1-17-5  
TEL 06-6370-5883 (平日10:00~17:00)  
WEB <http://osakalifesupport.jp/osaklsa/>

スタジオ新大阪416号  
FAX 06-6370-5884